

第2章 まちづくり教育の実践

2-1 新しいまちづくり教育の背景と実践

1. 新たなまちづくり教育の必要性和取り組み状況

戦後復興に始まった都市レベルのインフラ整備と用途地域指定によるゾーニングを中心とした都市整備が一定の水準に達した今日、特に阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、都市を災害や犯罪から守る上でも、市民の手による地区レベルのまちづくりが重要視されている。また、地域レベルでは、都市化の進行等から地域社会の結びつきが希薄になり、旧来の相互扶助が期待しにくくなっている中、第1章小学生アンケート調査でみるように、小学校区を基礎とした日常の環境にはらむ事故、犯罪、災害などの危険は高まっており、児童生徒の安全をいかに確保するかは今日のまちづくりにとっても大きな課題となっている。一方、教育の現場においては、都市化、IT化、少子化といった社会情勢を背景に、家にこもりがちで地域社会の構成員としての自覚がなく、他人との関係づくりの未熟な児童生徒の増加など、多くの問題が指摘されてきている。

こうした都市、教育サイド双方の問題認識のもと、都市計画家（行政、専門家）と教育家の連携によって、地域に最も密着した初等教育の場において、新たなまちづくり教育への取り組みが始められるようになった。

平成14年度には、静岡、神奈川、群馬でこうした新しい視点からのまちづくり教育の実践がなされ、それぞれの地域で小学生によるまちづくりワークショップ等新しい試みが行われた。この内容については、各地域ごとに、小学校教員と都市計画関係者（行政担当者、都市計画専門家など）の参加によるシンポジウムが開催され、報告が行われた。また、このシンポジウムでは、実施されたまちづくり教育の報告だけでなく、教育サイドの専門家からは従来のまちづくり教育の問題点や新たな視点・手法の紹介、都市計画関係者からは地域特性に根ざした地区レベルのまちづくりと初等教育での実践の重要性、まちづくり教育用教材開発などについて講演が行われ、参加した教育家、都市計画家・地方行政担当者がそれぞれの立場を認識、課題を共有する場ともなった。

なお、このまちづくり教育の実践は、従来型の地域学習を超えた新たなまちづくり教育の提案・実践を進めているTOS S（Teacher's Organization of Skill Sharing）のご協力により、実施された。

第2章では、これら3地域で実施されたまちづくり教育について、シンポジウムでの報告内容を中心に整理を行うとともに、まちづくり教育の重要性・課題などについて、講演内容の概要紹介の形で提示する。

2. 地域別ワークショップ、シンポジウムについて

静岡・神奈川・群馬のまちづくり教育ワークショップ、シンポジウムは以下の内容で実施された。

―― 静 岡 ――

＜まちづくりワークショップ＞（*シンポジウムにて概要発表。詳細は後述 2-2 まちづくり教育実践報告参照）

1. テーマ：静岡県のまちづくりを学ぶ
2. 実施主体：静岡県藤枝市立広幡小学校4年生（2学級）、担任 森竹高裕教諭
3. 内容

①事前学習

- ・数人ずつのグループに分かれ、「こんな藤枝市にしたい」「そのために何を見てきたらいいか」「どの町に行けばいいか」を検討（山林保全、身近な緑や水の環境、バリアフリー、まちの安全など具体的なテーマと見学先を決める）
- ・保護者の参観会

②まちづくり探検

（実施日時）平成13年10月23日（火）8:30～16:00

（参加者）4年生児童計70名、保護者21名、教員

（内容）各施設等を見学、担当者に話を聞く

（探検場所）スタジアム（清水市、磐田市）、ビオトープ（三島市、焼津市、清水町）

森や植物（浜松市、島田市）、やさしさ（静岡市）、にぎやかなまち（大井川町）

③まとめ

（実施日時、場所）平成13年11月16日（金）、教室

（内容）（1）探検のまとめ発表

（2）未来の藤枝市についての話し合い

：スポーツ、福祉、安全で大きなまち、植物・森林、レジャー、川や水、施設の7項目で具体案を発表

（その他）同校の先生方が研究授業として参観

④藤枝市へのプレゼンテーション

⑤公開ワークショップ（発表会）

（実施日時）平成14年11月22日（金）



＜まちづくり教育シンポジウム I N 浜松＞

1. 開催日時：平成14年12月1日（日）10:30～15:50
2. 場所：アクトシティ浜松 コンgressセンター41会議室（静岡県浜松市板屋町）
3. 主催：まちづくり教育研究会／T O S S
4. 参加者：初等教育関係者（小学校教諭等）、都市計画関係者（行政、都市計画コンサルタント等）

計約160名参加

5. 内容 (敬称略)

①特別講演 「今こそまちづくり教育を」	・小澤一郎（都市基盤整備公団理事、前建設省審議官） ・大熊久夫（（財）計量計画研究所研究部）
②基調報告 「新しいまちづくり教育とは」	・鈴木康一（東京都大田区立入新井第二小学校教諭）
③実践報告（各10分）（*1）	T O S S 静岡メンバー ・「バスから見えるまちづくり」 堀場弘喜（掛川市立西山口小教諭） ・森竹高裕（静岡市立中藁科小教諭） （*上記ワークショップについての発表） ・「駅前通から考えるまちづくり」 前島康志（掛川市立西郷小教諭）
④シンポジウム 「まちづくり教育の可能性」 ・浜松まちづくりセンターと協力した授業実践発表 ・討論	・授業実践発表：鈴木滋雄（浜松市立西小教諭） ・討論 向山洋一（T O S S 代表） 笹原 克（（有）オイコス計画研究所） 大和田清隆（浜松まちづくりセンター長） 司会：新牧賢三郎（東京都大田区立洗足池小教諭）
⑤模擬授業（各7分）（*2）	T O S S 静岡メンバー ・「まちにあふれるすてきなデザイン」 芹沢晴信（三島市立三島北上小教諭） ・「商店街のまちづくり」 手塚美和（清水市立中河内小教諭） ・「日本一のまちづくり授業」 松井靖国（修善寺町立修善寺小教諭） ・「江戸のまちづくりに学ぶ」 高山佳己（浜松市立和田小教諭）
⑥講演「T O S S 流まちづくり教育とT O S S 最新情報最前線」	・向山洋一（T O S S 代表）

（*1）実践報告：実際に行われたまちづくり授業の報告（公開ワークショップ開催含む）

（*2）模擬授業：新しいまちづくり授業の内容、方法についての提案（試験実施されたものを含む）。当日会場を教室に、参加者を児童生徒に見立て、概要を実施して見せる。

神奈川

<まちづくりワークショップ>（*シンポジウムにて概要発表。詳細は後述 2-2 まちづくり教育実践報告参照）

1. テーマ：福祉ボランティアの授業からまちづくりへ
2. 実施主体：神奈川県横須賀市立津久井小学校6年1組、担任 佐々木誠教諭
3. 内容
 - ① アイマスク、点字、手話、車椅子体験
 - ② 福祉ボランティアの視点で学校や学区を調査（アイマスク、車椅子でまちを体験）
 - ③ 福祉ボランティアの視点で日本と外国の国々との関係を考える（ユニセフなどの学習）
 - ④ 福祉ボランティア実践
4. 発表会



(日時) 平成15年1月21日(火)

(場所) 津久井小学校6年1組教室

(参加者) 6年1組児童生徒

横須賀市企画調整部企画調整課・

市民部市民生活課・土木部交通対策課担当者

(内容)・小学生のまち体験発表

・まち体験からの疑問や提案に、行政担当者から土木インフラ技術の現状などを説明

<まちづくり教育シンポジウム I N 神奈川>

1. 開催日時：平成14年2月1日(土) 13:00~16:30

2. 場所：川崎産業会館 (JR川崎駅西口)

3. 共催：まちづくり教育研究会/TOSS

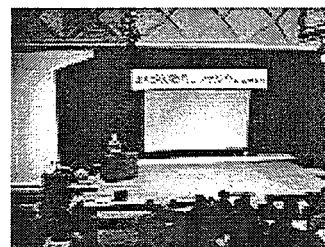
日本都市計画家協会

(財)神奈川県土地地区画整理協会

4. 参加者：初等教育関係者(小学校教諭等)約200名

都市計画関係者(行政、都市計画シンクタンク関係者等)約20名

5. 内容 (敬称略)



①基調報告「新しいまちづくり教育とは」	・鈴木康一(東京都大田区立入新井第二小学校教諭)
②実践報告(各10分)	・「福祉ボランティアの授業からまちづくりへ」 佐々木誠(横須賀市立津久井小教諭：TOSS 横浜) (*上記ワークショップについての発表) ・「静岡県のまちづくりを学ぶ」 森竹高裕(静岡市立中藁科小教諭：TOSS 静岡) ・「まちづくり教育における行政との連携」 師尾喜代子(TOSS 中央事務局)
③模擬授業(各7分)	・「「ユニバーサルデザイン」って何？」 渡辺喜男(TOSS 横浜) ・「長井市の産業とまちづくり」 小川幸一(小教諭：TOSS 横浜) ・「日本で一番有名な村」 中山和明(小教諭：TOSS 湘南) ・「街のよさを知り、よさを生かす」 江口儀彦(小教諭：TOSS 相模原) ・「思い」が「かたち」となったまちづくり 田中忠(小教諭：TOSS 川崎)
④まちづくり専門家からの提案	・泉耿介(日本都市計画家協会) ・野口創史(シュミラボ・ユーザーズ連絡会) ・「歴史好きのまちづくり探求」 (神奈川県行政担当者) ・「川崎市におけるまちづくり学習プログラム」 (川崎市行政担当者)
⑤特別講演「各種提案を受けて、今こそ、まちづくり教育を」	・小澤一郎(都市基盤整備公団理事、前建設省審議官)
⑥講演「TOSS流まちづくり教育とTOSS最新情報最前線」	・向山洋一(TOSS代表)

群馬

<まちづくりワークショップ> (*詳細は後述 2-2 まちづくり教育実践報告参照)

1. テーマ：小学校周辺地域を観察、学習する
2. 参加者：群馬県高崎市乗附小学校 4～6 年生（7 名）
高橋和夫乗附小教諭
(財) 高崎市都市整備公社、(財) 都市防災研究所
3. 実施場所：乗附公民館及び周辺地域
4. 日時：平成 15 年 3 月 8 日（土）13:00～15:00
5. 内容



①まちを学ぶ

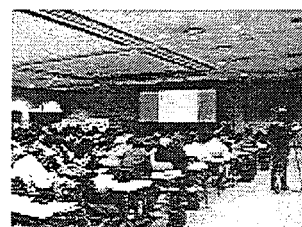
- ・空中写真（高崎市八千代町の 40 年前、現在）を見て、気づいたことを発表
- ・まちの構成要素は何か（付箋に書き出し）

②現地観察：公民館周辺の道路、河川と緑道などを歩いて観察

③まとめ：まちづくりの方法、道路の役割、橋と川、気になる大規模工事について学習

<まちづくり教育シンポジウム I N 群馬>

1. 開催日時：平成 15 年 2 月 16 日（日）13:30～16:30
2. 場所：問屋町センター（ビエント高崎）エクセルホール（群馬県高崎市）
3. 主催：まちづくり教育研究会／TOSS、日本都市計画家協会、
群馬県都市計画協会
後援：群馬県、前橋市、前橋教育委員会、高崎市、高崎教育委員会
4. 参加者：初等教育関係者（小学校教諭等）約 150 名、都市計画関係者（行政、都市計画コンサルタント等）約 50 名
5. 内容（敬称略）



①基調報告「新しいまちづくり教育とは」	・鈴木康一（東京都大田区立入新井第二小学校教諭）
②実践報告（各 10 分）	・「まちづくり教育における行政との連携」師尾喜代子（TOSS 中央事務局） ・「福祉ボランティアの授業からまちづくりへ」佐々木誠（横須賀市立津久井小教諭：TOSS 横浜） ・「障害を持つ人・老人に優しい都市を考える、ボランティア教育の視点に立った都市づくり教育」白井輝（群馬県箕郷町立箕輪小教諭：TOSS 群馬）
③模擬授業（各 7 分）	TOSS 群馬メンバー ・「「循環型社会」を目指したまちづくり教育の授業」高橋和夫 ・「通学路の歩道から始める「まちづくり教育」授業案」小林 宏 ・「「ビオトープ」から「まちづくり」に参画する」大澤 智 ・「資源循環型社会を視野に入れたまちづくりの授業」赤石賢司
④まちづくり専門家からの提案	・牧葉子（日本都市計画家協会） ・島田和也（群馬県都市計画課主幹） ・松本泰夫（高崎市都市計画課長）
⑤特別講演「各種提案を受けて、今こそまちづくり教育を」	・小澤一郎（都市基盤整備公団理事、前建設省審議官）
⑥講演「TOSS 流まちづくり教育と TOSS 最新情報最前線」	・向山洋一（TOSS 代表）